

清水町総合計画審議会 会議録（要約）

日時 令和4年12月19日 19時00分～20時32分

場所 清水町役場庁舎2階 庁議室

【出席者】

委員：五十嵐卓、長谷川弘、氷見隆雄、石田恭太、和田聡明、大久津誠二、
澤山直樹、林緑

（欠席：松橋達美、高橋利幸、大東孔美、寺内麻紀）

事務局：企画課長（鈴木聡）、企画課長補佐兼企画統計係長（下保朋子）
企画統計係主事（木村翔）

傍聴者 1名

記者 0名

1 開会

2 町長あいさつ

今日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。近年は雪が少なく、農作物に良い影響を与えない状況が続いたが、今年は雪が降ったため、このまま根雪になってほしいと思います。第6期総合計画については昨年度からスタートしています。5月25日に今年度1回目の会議を開きまして、皆さんからご意見をいただき進めているところがあります。今回はまた半年分の評価をいただきながら、修正できるものは修正して進めたいと思っています。コロナ禍が依然と収束しないなか、ウィズコロナ、ポストコロナに向けて、皆さんのご意見をいただきながら、中間評価をしていただければと思います。よろしく申し上げます。

3. 会長あいさつ

何かとお忙しい中、清水町総合計画審議会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。5月以来、約7か月ぶりの審議会の開催となります。前回は令和3年度人口動態及び、清水町人口ビジョン・総合戦略における令和3年度実施事業評価について、委員の皆さんからご意見をいただき、ありがとうございます。先ほど町長お話がありましたが、皆さんの意見をいただきながら、本日の審議を円滑に進めて参りたいと思いますので、ご協力のほどよろしく申し上げます。

4. 諮問

（町長）

第6期清水町総合計画の進捗状況について、貴審議会の意見を求めます。

(町長から会長へ諮問書を手渡し)

5. 協議事項

(五十嵐会長)

協議事項に入ります。

協議事項(1)第6期清水町総合計画の進捗状況について、事務局より説明をお願いします。

【企画課長、企画課長補佐より一括説明】

(五十嵐会長)

只今説明を受けました、清水町人口ビジョン・総合戦略における令和4年度実施事業の中間評価について、委員の皆さんよりご意見やご質問、また、これに限らずどのようなことでも構いませんので、ご発言いただければと思います。

(長谷川副会長)

J Aと町として牛乳消費拡大の努力をされているが、農家が牛乳を廃棄しなければいけない状況と聞いている。もう少し一般消費者が乳製品を買えるような政策を考えてはどうかと思う。

移住者が移住者に対する補助金を知らずに、申請をしていないケースもある。移住されてきた人が住民票の手続きをした際に移住者に対する補助金の説明をするなど役場内での連携を強化して、申請漏れがないようにしていただきたい。

(企画課長)

牛乳の政策については町としても農協と連携を取りながらできる限りの取組みをしていきたい。現在は月2回、販売の取組みをしているが、3月まで続けさせていただく予定である。生乳廃棄の危惧がされている状況や資材、飼料高騰に伴い、酪農経営が苦しくなっているため、来年度以降どのような対策ができるか農協とも協議しながら進めていきたい。

転入者に対してはまとめて資料を渡している現状である。たくさんの資料を渡しているため、目につかない制度もあるかと思う。まちづくり懇談会でも指摘されているため、更なる連携を図っていきたい。

(氷見委員)

牛乳について誤解のないようにお話させていただきたい。清水町の場合は農協に対し14万8千トンの枠があり、農協で調整をしている。この枠に収めるために農協としてもいろんな対策を行っているなかで、絶対に廃棄はしないよう農家へ伝えている。その代わりに農協単独で様々な助成を行っている。清水町はなんとか枠内に収まりそうな状況にある。廃棄をしてしまうと、牛乳消費拡大の意味がなくなってしまう。これからも牛乳消費拡大を町ぐるみで進めていく必要があるため、これからも皆様のご協力を得ながらやっていきたいと思っているため、よろしくお願ひしたい。

(澤山委員)

牛乳の消費低迷は考えさせられる部分がある。廃棄してしまうことはもったいないため、町や農協でうまく支援出来たらと思う。しかし日本の人口が減少していくなかで、牛乳をいっぱい飲んでもらうことが根本的に厳しくなっていくのではないかと思う。たくさん作って、たくさん消費するという考え方を変えていく時期にきていると感じている。商品に付加価値をつけ、高く販売することで生産量が減っても生産者の収入は変わらない。また生産量が減ることでコストもかからなくなるため、今後考えていかなければならない部分だと思う。自分としてもオーガニックに力を入れている。国もオーガニックヴィレッジ宣言を行い、2025年までに100市町村を目指している。北海道では安平町しか手を挙げていない。オーガニックに関心を持っている人が増えている。新規就農される方も健康志向やオーガニックに取り組みたいと思う人も多いのではないかと思う。子育て世代も安心安全な食料について関心が高いと思うため、移住にもつなげていければと思う。

この場で出た意見の取り扱いはどうなるか。

(企画課長)

総合計画審議会につきましては町の総合計画を審議する中心となる審議会である。いただいた意見は町長を含め各課職員に伝えさせていただく。その中で施策として取り入れるものは取り入れていきたいと思う。人口ビジョン・総合戦略についても、順次見直し進めていきたい。皆様の意見をできる限り政策へ反映していくことを心がけたいと思っている。

(澤山委員)

5月の審議会商品券のポイントカードについて質問させていただいたが、その後どうなったのかわからない。この場の意見は反映されるものなのか、意見として終わってしまうものなのか、結果が見えていない。

(企画課長)

5月にいただいた意見が目に見えてこないというところは申し訳ないと思っている。何らかの対応策を考えたいと思う。商品券のポイントカードについては、担当で検討をさせてもらっているが、お店側の準備もありまだ形にはなっていない。できる限りポイントカードを普及させたいという意向があるため、商工会やハーモニーカード商店会と協議を進めていきたいと思っている。

(澤山委員)

結果としてどうするということがなければ、意見を出す意味がなくなってしまう。意見に対しての返答をいただきたいと思う。

(企画課長)

どのような対応がとれるか検討をさせていただきたいと思う。

(長谷川副会長)

今年度は30%プレミアム商品券を2回やっていただいた。6億円弱のお金が商店街に流れており、商工会にとって経済的に大変ありがたいと思っている。商工会としてはなるべくプレミアム率を上げてもらって、町の活性化を図るとともに商店街も潤わせていただきたい。

(企画課長)

今年度の3回目については20%のプレミアム率で実施する方向で進めている。

(長谷川副会長)

芽室町がふるさと納税と企業版ふるさと納税を含めた中で前年の3倍くらいの寄付があったと新聞に掲載されていた。清水町も負けずに努力をしていただきたい。

結婚支援事業について男子図鑑は人気もあり実績もあるため、第3弾をぜひやってみてほしい。

地域おこし協力隊は5人の任用をしているが、任用に人数制限はない。新得町は役場内だけでなく、民間にも地域おこし協力隊を派遣している実態もあるため、幅広い形の中で考えて任用人数を増やしてはどうか。

(企画課長)

ふるさと納税については先日の紙面で芽室町の寄付額が前年の3倍近くになったという報道があった。清水町において企業版ふるさと納税はまだ実績がないが、本日申込書が1件届いている。ふるさと納税は昨年3億3千万円の寄付があった。本年については伸び悩んでいる状況である。巣ごもり需要の減少やふるさと納税の費用上限の関係で寄

付額を増額したことも影響しているかと思う。今年度はサイトや返礼品を増やす努力はしているが、思うようにいっていない。12月が一番寄付の多くなる時期であるため、PRも含め取り組んでいきたいと思う。

結婚支援について結婚新生活支援事業は来年度以降も国の制度に則り継続していきたいと思う。男子凶鑑の話もあったが、結婚に対してそれぞれの思いがあるなかで、どのような政策ができるか考えているところである。農林課にも担い手対策として協議会があるため、連携をして進めていきたい。

地域おこし協力隊についてはできる限り活用していきたいと思う。ただし単純な労働力の確保ではなく、清水町として目的を定めたなかで募集をしていきたい。企業の派遣についてもどのように地域おこしにつなげるか関係機関と協議して進めていきたいと思う。

(大久津委員)

祭りのようなものがコロナ拡大により中止されている。音更町は道の駅を建設することで町の観光情報を発信している。道の駅を建設することで清水町の魅力を年間通して発信できるのではないかと思う。

(企画課長)

道の駅については町長の公約にもあり進めてきたところであるが、スーパーの閉店や新体育館の建設、物価高騰の問題が出てきている。道の駅を諦めたということではなく、優先すべき事業が終わったあとに取り組みたいと考えている。

清水町の観光情報発信については、清水公園を活用していきたい。清水公園にある飲食店にも協力をいただきながら観光情報を発信していきたい。十勝千年の森にも協力をいただきながら情報発信しているところである。今後も既存の地域資源を活用していきたいと思っている。

(石田委員)

総合戦略のKPIを途中で見直すことはあるのか。第6期総合計画は昨年作成されたばかりである。まだ序盤の中で「順調」が多いことに違和感を感じる。KPIの基準が低いという見方も出来てしまう。資料では令和7年度が目標となっているが、5年間はKPIを変更しないのか、随時変更をしていくものか。

(企画課長)

人口ビジョン・総合戦略は5年間を計画期間とさせていただいている。総合計画についても前期、後期の5年ずつの計画となっている。数値を全く変えないということではない。まずは令和7年度に向かって進めていきたい。その過程で統廃合や新設、KPI

について検討していかなければならないと思っている。始まって1年足らずであるため、このK P Iで良いのか検証が必要かもしれない。皆さんの意見を踏まえたなかで検討をさせていただきたいと思う。

(和田委員)

前回の審議会でゼロカーボンの取組みについて質問をさせていただいた。10月にコンサルからの説明会があり、いよいよ動き出すことになると思う。取組みを進めていくには企画課だけでなく、各課が横断的に行うことや町民を巻き込んで進めていく必要があると思う。全世界共通の取組みであるため、今後の動きに期待したい。

U I J ターンの間評価の記載の仕方では東京圏から就業する人に対してのみの記載となっている。起業向けの施策的なものが見えてこない。例えば町内の空き店舗対策に絡めて、清水町に商売することを目的に移住してきた人に対して、物件を紹介できるような仕組みがあっても良いと思う。

事業者が新商品の開発や既存商品のブラッシュアップをするときに経費がかかるため、二の足を踏んでしまうこともあるかと思う。北海道で補助制度があるが、期間が限定的でなかなか使いづらい。町で支援する制度を創設してはどうか。

(企画課長)

脱炭素についてはこれからいろいろ示していく必要がある。年明けに2回目の町民検討会議を開催させていただく。戦略目標の考え方等について説明をする場を設けたいと思う。来年度以降何ができるかまだわからないが、家庭での省エネ効果のあるものや高气密性のリフォームの推進の制度ができないか考えている。またバイオマスを有効活用することで、そこからできる消化液を活用した肥料対策も含めて脱炭素に取り組んでいきたいと思う。

移住者の起業について、商工会からいろんな提案をいただくなかでチャレンジショップの検討をしている。しかし不動産の管理が難しい状況がある。町内で商店街をやられていた方はそこにまだ住んでいるという課題もある。住居と店舗が一緒になっていることが清水町の特徴でもあるため、どうクリアしていくかが課題であると思っている。

商品開発についてふるさと納税に関しては返礼品の充実をしていかなければならないと思っている。どのような支援が良いのかどうか、ふるさと納税を運営している物産振興機構や商工会を含めて、どのようなものが良いか考えていきたい。

(和田委員)

チャレンジショップに活用できる箱に目星はあるのか。

(企画課長)

箱があるのかを含めて調査している最中である。

(林委員)

その年その年で変化していくものがたくさんあり、それに合わせて見直しをしていかなければならない。チャレンジショップの件も含めて昨年と言っていることが一緒である。全然進んでいないと実感をしている。牛乳消費拡大も月に2回実施をしているが、どれくらい消費拡大に効果があるのかわからない。すごく良い企画だと思っているため、負担でなければ回数を増やして良いと思っている。利用される方はたくさんいると思う。

にんにくのキッチンカーも100円で清水町産のにんにくをたくさん袋に入れてくれるため、すごくお得だと思うがお客さんが少なかった。周知や魅力が足りなかったのか何が原因かはわからない。

イベントを町民は求めていると思う。清流祭りも大盛況であったため、町民はコロナに対しての免疫が出来ており、たくさん参加してもらえと思う。評価内容の中に「コロナ禍」という理由が多いため、今回は少しでも「順調」が増えていけば良いと思う。

他の町村と比べるものではないが、新得町や芽室町は活発に感じており、清水町は寂しく感じている。

音楽の地域おこし協力隊の堀江さんが企画している吹奏楽団の演奏会を先日見に行ったが、大盛況ですごく感動をした。町にとってすごく良いプロジェクトだったと思う。

(企画課長)

堀江さんについては期待以上の活動をしていただいている。吹奏楽団も50人を超える団員が集まっていると聞いている。合唱指導も担っていただいている。3年の任用予定期間の後は未定であるが、吹奏楽団が定着できるよう進めていきたい。12月25日に吹奏楽団の発表があるため、ぜひ聞いていただきたいと思う。

コロナについてはご指摘のとおりだと思う。町としてもできる限り制限はしたくないと思っている。町長の思いとしてもアフターコロナに向かって、やっていきたいと考えているため、来年度はまた違った動きがあると思う。

その他いろんな話をいただきましたので、今後の参考とさせていただきたい。KPIについては検討をさせていただきたいと思う。

(氷見委員)

コロナ禍のなかでどこを優先して実施していくかを整理する必要がある。全てを同時に進めることは難しいため、重点的に行うものをこの中から選定して進めていくのが良いと思う。

先ほど話のあった牛乳消費拡大については職員の働き方改革の問題もあり毎週実施することは難しいためご理解いただきたい。にんにくについてはシンガポールや台湾への

輸出を考えている。清水のブランドとしてにんにくをいろんなところに広めていきたい。これからもご協力をお願いしたい。

(企画課長)

町の財政も限られたなかで運営させていただいている。体育館の建設や公共施設の老朽化など様々な問題がある。政策の優先順位をつけながら限られた財政のなかで取り組んでいきたい。町長としても、以前のような行財政改革の時代に戻さないという思いで進めているため、皆様にもご理解とご協力をお願いしたいと思う。

(五十嵐会長)

色々なご意見をいただきました、答申についてはどのようにいたしましょうか？

(企画課長補佐)

答申につきましては、皆様方からご意見のあった会議録を付して答申とさせていただきたいと思いますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

(五十嵐会長)

それでは、本日の審議会の意見については、後日会議録を全員に送付し、内容を確認いただいた後、その会議録と併せて正式な答申を町長に提出することとします。

委員長から町長への答申書は、後日事務局より提出してもらうこととします。

6. その他

(五十嵐会長)

その他、何かありますか。

(長谷川副会長)

清水の入り口であるいちまるの明かりがなくなった。御影は朴澤病院が廃業となり、現在取り壊しにかかっている。さらに御影の信金が来年に廃止となることが報道された。御影支所にATMがあっても、お年寄りが使うのが大変なことや振り込め詐欺などの問題があるなかで御影支所の職員が対応することは難しいと思う。これから信金と町との協議がされるかと思うが、例えばATMを置いた御影支所の中に誰か留守番をすることなどお年寄りのために何か良い方法で解決していただければと思う。信金の跡地利用についてもどうしていくのか相談して欲しいと思う。

(企画課長)

清水の入り口が変わってきている現状がある。相手方もあるなかで何ができるかわか

らないが、商工観光課でも検討をしていると聞いている。

信金の関係についても、利用者の不安解消に向けた協議をこれからしていくことになる。ご意見として承りたいと思う。

(長谷川副会長)

町としての希望を相談してもらえればと思う。

(企画課長)

買い物銀行バスなどの移動支援も活用しながら今後どうすべきか相談をさせていただきたい。

7. 閉 会

(企画課長)

たくさんのご意見ありがとうございます。今後のまちづくりに活かすとともに皆さんからの意見の結果をご報告させていただきたいと思います。閉会にあたりまして、五十嵐会長よりご挨拶をいただきまして、本日の総合計画審議会を終了させていただきます。

(五十嵐会長)

本日いただいた委員の皆さまからの貴重なご意見をたくさんいただきました。次回までに何らかの回答をいただきたいと思います。また本日の意見をまちづくりに活かしていただければと思います。

本日は長時間にわたり、ご審議いただきましてありがとうございました。